

十カ町会 町並み景観通信

発行日 平成6年10月14日
発行 十カ町会
編集 十カ町会町並み景観委員会

十カ町会 町並み景観通信 発刊にあたって

十カ町会会長

このたび、十カ町会では町並み景観通信を発行することになりました。この通信は、この町に住んでいる私達自身による町づくりを進めるために、話し合いの場として活用していきたいと考えています。

川越の町は江戸時代から明治、大正、昭和を経て平成に至るまでの歴史を刻んできています。特に、私たちの住んでいる北部地区は、重層した歴史性にその特徴があり、川越の町の中でも最も川越らしい地区なのです。この町の特徴を大事にしながら、そのイメージを発展させて北部地区の活性化に役立てなければなりません。

活性化というとまず商業が思い浮かびます。北部地区には、今の商店街にはない雰囲気を持った商店街が多くあります。それは、歴史を感じさせる町を楽しめるということです。私たちが住んでいるすばらしい歴史的な町並み景観を活かしていくことが大事なのではないでしょうか。また、幸いなことに私たちの地域には川越市が大きな土地を持っています。この場所を有効に使うことも北部地区の活性化にはたいへん役にた

つことでしょう。この活用方法を考え、川越市に提案していくのも十カ町会の役目と考えています。

昨今、志多町で計画されているマンションが大きな話題となっています。過去にも大規模なマンション建設で町が揺れ動いたこともありましたが、これも、自分たちの町づくりに対するルールが決まっていないからではないのでしょうか。土地を活用するのも、地元で決めたルールを守りながら活用できればもっと違ったものになったかもしれません。この町には、町づくりに対するなんらかのルールづくりが必要な時期にきているのです。これらも、十カ町会の大きな課題の一つです。

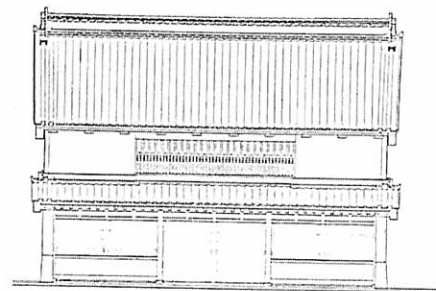
町づくりといっても、道路を作ったり建物を立てたりするようなお金がかかる物だけでは決してありません。自分たちの身の回りのことから始められます。景観をきれいにしたいければ、看板を整理したり、道路から見えるところに花を植え、洗濯物を少し隠すだけでも効果があります。自分の家の前だけでも道路をきれいに掃くのもいいでしょう。また、お祭りに積極的に参加して楽しむのもいいでしょう。それによってお隣とのコミュニティが生まれます。これも、町づくりの第1歩です。

これらのためには、まず自分達の町の良いところや改善すべきところを知る必要があります。そして、自分たちの町の大切さを自覚しなければなりません。

私たちの町の良さをみつけ、認識を新たにするためにも十カ町会を作り勉強会を始めたのです。そして1個人や1自治会ではできなくても、11の自治会が集まり、手を携えることによって大きな力となるでしょう。

こんなことを考えながら十カ町会は発足しました。十カ町会は、北部地区11カ町に住む皆さんの会です。この通信を通して広く皆さんの意見を伺い、私たちの

町をどうするのがよいか語りながら、もう一度見つめてみましょう。川越に対する新しい愛着が生まれ、更に好きになるよう井戸端談義といきましょう。



十カ町会とはどんな会 十カ町会は どんなメンバー

十カ町会とは、川越の旧城下町地区（北部地区）の自治会長が中心になって発足しました。メンバーは、北から、順に次のとおりです。

□ 十カ町会の目的

目的は、地区内の住民の自主性を尊重し、相互の理解と親睦を図り、町並み景観を守りつつ豊かな生活環境を保全し、よりよい町づくりを促進することです。

川越の町は、江戸時代以来埼玉県の中心都市として繁栄してきました。その中でも、私たちの住んでいる札の辻を中心とした北部地区と現在呼ばれている地区が行政、商業、文化すべての中心でした。駅が町の南のはずれにでき、交通体系が時代とともに変化してきた結果、商業の中心は南へ南へと下っていきました。現在では、アトレのオープンによって川越駅へと中心がますます移ってきました。西口の県立図書館周辺に大宮のソニックシティのような超高層ビルも計画されており、近い将来川越の町の中心は川越駅となっていくことと思われます。

このままでは、私たちの北部地区は取り残されて何の変哲もないさびしい町になってしまいます。外の人々が何かしてくれるのをまっけていても私たちが動かない限り手を差し延べてくれることはないでしょう。今、一番街商業協同組合など一部の商店街の人達の間で、自主的な町づくりが進められてきています。しかし、まだまだごく一部の人達だけのものです。

そこで、住んでいる私たち自身が立ち上がって町づくりをしていこうということになりました。私たちの住んでいる町のことは私たち自身がいちばん良く知っています。その私たち自身が町づくりを考えることがこの町にもっともふさわしい町をつくることになるでしょう。

町づくりには一つの町内では、非力です。やろうとしても出来ないことがたくさんあります。ちょっとした問題も、数町内にまたがっていることがほとんどです。各町で共通の問題も多くあると思います。三人よ

れば文殊の知恵ではありませんが、いくつかの町内が集まって考えていくことで解決策が生まれる可能性が大きくなります。そのためには、自分の町だけでなく、隣近所の町のことも知る必要があります。相互の理解と親睦をはかることが一番の近道でしょう。

では、どのような町がこの町にふさわしいのでしょうか。

□ 川越の町並みは日本の顔

この北部地区には、日本中に誇っていいものがあります。それは、歴史的な町並みです。昨年夏、第16回全国町並みゼミ川越大会が開かれました。全国から500人を超える人達が川越に集まりました。その人達からでる言葉は川越の町並みのすばらしさです。話には聞いていたけれどこれほどの町だとは思っていなかったと口々に言っていました。そうです、川越の町並みは、京都や妻籠、高山、倉敷にまけない日本を代表する町並みなのです。

そのなかでも、一番街は蔵造りの町並みとして有名ですが、かといって一番街だけでこの町ができているわけではありません。志多町から喜多町にかけて残っている川越大火以前の町並み、銀座通りの町並み、松江町の教会周辺の町並み、裏通りの住宅地、それらが一体となってこの川越の町並みはできているのです。

そこで、この歴史的な町並みの良い点を取り入れた町づくりをしていくことがこの北部地区にとって今後生き残るために最善と考えられています。歴史性こそがほかの町に絶対にまねのできないものなのです。

この歴史的な町並みをじょうずに生かしながら、より豊かな環境を創りだしていくことを考えねばなりません。

□ みんなで作ろう

今後、より良い町づくりを進めていく上で、さらに調査研究を深めたり、講演会、説明会、視察を行っていきたくて考えています。また、私はこんな意見を持っている、こんな事を考えている、こんなことだったらお手伝いできる、というような方にはできるだけ様々な機会に参加していただき、町のひと全員が参加した町づくりができるようになれば良いと考えております。

この活動は、一つの事業で終わるものではありません。町がここにあり、人々がここに住みつづけるかぎりずっと続いていくものです。子々孫々に美しく住みやすい町を残そうではありませんか。

